

3 年生の動きから学ぼう……3 年生は今、何をしているか

「2 年後の自分」

いよいよ 9 月末、前期が終わるところまでできました。1 年生の皆さんにも折り返し地点の秋が来ます。この時期になれば、クラスや学年に対する意識もすっかり日常化し、日々を特に意識しなくても当たり前で過ごせてしまいます。でも、ほんの数ヶ月前までは、クラスの友達と話すにしても、授業を受けるにしても、ある種の緊張感がありました。緊張せず、リラックスして日々を送ることができることは大切なことです。そのような環境を維持しつつ、いよいよ様々なことに落ち着いてじっくりと取り組める時期が来ました。日々の勉学と部活動はもちろん、進路について真剣に考えてみるにも、秋は最適な季節です。「2 年後の自分を思い浮かべる」そんなシミュレーションをここでやっておく意味は大きいと思います。今回は、この時期の 3 年生は何をしているのかということと、それぞれの取組について紹介してみたいと思います。

「3 年生は今！」

就職

企業への就職は 9 月 1 6 日から試験がスタートしました。そして合格をいただければ、**社会人となるための自分磨きの秋**が訪れます。

公務員は職種により違いますが、だいたい 9 月下旬から試験があります。そして 11 月中旬から下旬にかけて 1 次試験を通過した人に対しての 2 次試験が始まります。

専門学校・短期大学

専門学校は多くの場合、9 月から始まる総合型選抜（ＡＯ）、10 月から始まる学校推薦型選抜での合格を目指します。専門学校は定員のほとんどがこの形式の上、中には埋まり次第入試終了という、先着順のようなパターンの学校もありますので注意が必要です（製菓・調理など）。いずれにしても、専門学校を考えている人は、**職業との直結度が高い**ですから、早い段階から説明会や一日体験入学に参加するなどした上、学校の教育内容や費用、入試制度を調べておく必要があります。

短期大学も専門学校と同じく**学校推薦型選抜や総合型選抜で勝負の色合いが濃く**、総合型選抜（ＡＯ）は 9 月より、学校推薦型選抜は 11 月より入試が始まります。もちろん一般選抜もありますが募集定員のかなり多くがこの形式で決まります。したがって、短期大学を考えている人は、学習成績の状況（評定平均値）をしっかりと上げておくことが重要です。また入試問題も標準的なところが多く、学校の勉強をいかに大切にしているかが合否の鍵となります。

私立四年制大学

学校推薦型選抜（指定校・公募・特技・スポーツ）、総合型選抜（ＡＯ）、さらに一般選抜など多種多様な受験の形態があります。指定校・人数制限がある学校推薦型選抜については、校内選考を終えたところです。そして 11 月から学校推薦型選抜（公募）が始まり出す時期です。推薦入試の定員数を増やす動きが年々強まっており、自分にアピールポイントのある人は推薦入試から積極的に受験すればいいと思いますし、**校内でも該当生徒のため、志望理由書・面接・小論文指導希望を募り対応をします**。ただし短期大学とは違い推薦が主流になることはありません。ですから多くの人が 2 月から始まる**一般選抜に向かってひたすら力を蓄えているのがこの時期**です。

また、国公立大学に比べて入試科目が少ないのが私立大学の特徴ですが、それは実はラッキーなことではありません。科目数が少ないということは、それだけ 1 科目の比重が大きいということです。一般選抜ではだいたい 3 科目が標準ですが、1 科目でも苦手科目があれば、他の 2 科目で挽回することが難しいという面や、科目数が少ない分、多くの受験生が絞った勉強をしてきてボーダーが上がり、ハイレベルになりやすいという面があります。一般選抜では、共通テスト利用方式もあります。私大進学希望の人も、共通テストの受験は必須だと思ってください。また私立大学で、**指定校推薦の被推薦者要件に「共通テストの指定した教科を受験すること」と明記している大学**も出てきており、共通テストの重要性はさらに高まってきています。いずれにしろ、しっかりと学習時間を取り、多くの問題を解き知識を蓄え、2 月を見据えた受験勉強が大切であり、現役生は秋から一番伸びるんだということもよく知っておいてください。

国公立大学

多くの人が国公立大学に向けて 1 月に「大学入学共通テスト」を受験します。ただし 9 月下旬に、自分はどの科目で受けるという申請とともに出願をしなければならず、本校 3 年生は多くの人が出願を予定しています。共通テストはこれまでは高校を通じた郵送出願でしたが、本年度より受験生**個人によるウェブ出願**へと全面移行しています。出願サイトでのマイページの作成は、7 月 1 日からすでに始まっており、10 月 3 日までに**個人で出願内容の登録**を済ませなければ、共通テストを受験することができなくなります。学校でも説明会を開き、準備カード作成の時間を持つなど、入力ミス等のないように万全を期していますが、みなさんも、模試での Classi 入力等、日常から気をつけてください。今年度の共通テストは来年の 1 月 1 7 日、1 8 日です。年が明ければすぐです。そして 3 年生は秋以降、授業でも共通テストに向けた演習が徐々に入ってきて、いよいよ本番ムードが漂ってきます。**共通テストの問題は、旧センター試験と比べると、思考力を問う問題や生活に密着した題材の問題、あるいは資料や図表を読み解く問題が増えましたが「高校で習う範囲の総復習」という意味合いが強い問題**です。「国語」「英語」もそうですが、「数学ⅠＡ」「数学ⅡＢＣ」も 1・2 年生で今やることが出題範囲です。あと、新たな科目「**情報**」や「**公共**」をからめた地歴公民の選択が昨年度より始まっていることも注視しておいてください。**共通テストなんてまだ遠い先**と思っている人も、**日々の授業が 2 年後の共通テストにつながっていると理解してください**。また、共通テストの後に大学独自の 2 次試験が 2 月の下旬から控えており、合計点で競います。共通テストより 2 次試験の方が配点比率の高い大学もけっこう多く（特に難関大）ありますので、**記述対策も並行して行わなければならない**と知っておいてください。

それから、募集人数はそう多くはないのですが、国公立大学にも学校推薦型選抜や総合型選抜（ＡＯ）があります。多くは共通テストを課し、２次試験前に可否の結果が発表されますが、共通テストを課さずに独自の推薦試験を実施し、年内に結果発表をする大学もあります。またこの場合、推薦試験が学科試験の場合もありますが、面接・小論文、講義レポートの提出やディスカッションなど多様な方式で評価する大学が多いです。その場合１０月中旬～１１月下旬頃が試験日となります。国公立大学を目指している人は、日々の授業で共通テストに向けての学力をしっかりと蓄えとともに、全国的な視野で大学や入試に関する研究を進めてください。

そしてこのような学校推薦型選抜や総合型選抜（ＡＯ）の割合は今後増えていきます。右に総合型選抜の選抜方法や、学校推薦型・総合型選抜で重視する力についての記事を書きました。今、大学がどのような力を求めているのか、読み取ってみてください。

イメージした将来像から今を逆算

将来の職業や進学して学びたい学問に向かって「１年生のうちにやるべきこと」、「入学時から今までにやるべきだったこと」が見えてきたら、落ち着いて取り組めるこの時期に取り組みましょう。下のステップ①～④が、今までやってきた、また今後も進路ＨＲで継続して行う内容です。

「ステップ①」 「専門分野を検討する」

大学の名前ではなく、何を学びたいのかという視点から進路選択をスタートするのが基本です。自分の興味・関心や適性から選択できれば最善ですが、分からない場合は自分の好きな教科科目を足がかりに考えてみましょう。それに近い専門分野（学部・学科）を、資料を利用して、具体的に何を学ぶのかも含めて調べてみましょう。

「ステップ②」 「その専門分野が学べる大学を調べる」

ターゲットとなる専門分野（学部・学科）が決まれば、次にその学部・学科を設置している大学を調べます。全国では相当数になる場合もありますが、地理的条件や国公立の別、難易度などによって、ある程度候補大学を絞ります。また特定の資格取得を進学目的とする場合は、それを基準に一覧表で大学を探せる資料もあります。

「ステップ③」 「候補大学の学部・学科の具体的な内容を比較する」

候補大学を絞ったら、それらの大学の学部・学科の具体的な内容を調べて比較し、自分の希望に沿う大学を探します。国公立と私立それぞれ３校程度は見つけておくといいです。

「ステップ④」 「志望大学・学部・学科の受験科目を調べる」

志望大学・学部・学科が決まれば、受験科目についても調べてみましょう。国公立大学であれば共通テストと２次試験について、私立大学であれば学校推薦型選抜と一般選抜について、必須科目と選択科目及び配点を調べてまとめてみましょう。ここまでできれば、おぼろげだった進路が、きっとはっきりとしたものに見えてくるにちがいありません。

推薦入試で受験生に求められる力

（ベネッセ「大学入試の情報整理」より抜粋）

学校推薦型・総合型選抜で最も重視する力

学校推薦型・総合型選抜で大学が求めているのは「明確な志望理由・志望動機」

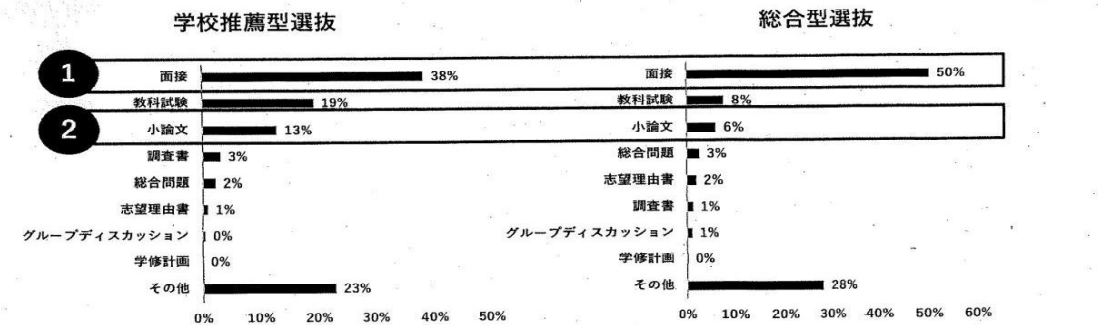
受験生に求める力	学校推薦型	総合型	差
明確な志望理由・志望動機（大学・学部・学科で学びたい理由）	76%	87%	-11%
基礎学力	59%	34%	25%
思考力、判断力、表現力などの応用的な学力	50%	54%	-5%
コミュニケーション能力	48%	58%	-10%
何事にも前向きに取り組む姿勢	47%	61%	-14%
卒業後の展望（社会に出た後にやりたいことやその理由）	35%	48%	-13%
自らの興味・関心に応じて行動できる力	34%	46%	-12%
協調性	33%	37%	-4%
社会の諸問題に対する関心や課題意識	27%	33%	-7%
興味・関心のある分野についての専門的な知識	20%	26%	-5%
リーダーシップ	17%	21%	-5%
各種大会や資格、探究活動などの目標を達成するためのプロセス	14%	26%	-12%
各種大会での受賞歴、各種資格の取得状況、探究活動の実績	13%	23%	-10%

＊「学校推薦型・総合型選抜に関するアンケート」（2023年10月～12月実施）より。回答件数591件（国公立大131件、私立大460件）。
＊数値は無回答を除く全回答数に対する、「とても重視している」の回答割合。

© Benesse Corporation

学校推薦型・総合型選抜で最も重視する選抜手段

教科試験以外で重視する選抜手段は主に「面接」と「小論文」



＊「学校推薦型・総合型選抜に関するアンケート」（2023年10月～12月実施）より。回答件数591件（国公立大131件、私立大460件）。
＊数値は無回答を除く全回答数に対する「とても重視している」の回答割合。

© Benesse Corporation